

河川水質の放射性物質濃度の調査結果(R5.2.14)

№	採取地点		採取日	天候	気温 (°C)	水温 (°C)	全水深 (m)	採取 位置	透視度 (cm)	放射性物質濃度 (Bq/L)		
	河川名	地点名								放射性セシウム		
										放射性ヨウ素 I-131	Cs-134	Cs-137
1	関山川	深田橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.10	全層	50<	不検出	不検出	不検出
2	境川	境橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.20	全層	50<	不検出	不検出	不検出
3	八反川	竹の内橋	R5.2.14	晴れ	6.0	5.0	0.30	全層	50<	不検出	不検出	不検出
4	江戸上川	第一神岡橋	R5.2.14	晴れ	4.0	4.5	0.20	全層	50<	不検出	不検出	不検出
5	根古屋川	根本橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.38	全層	50<	不検出	不検出	不検出
6	木皿川	大塚川合流点下流	R5.2.14	晴れ	7.0	7.0	0.35	全層	50<	不検出	不検出	不検出
7	塩田川	新橋	R5.2.14	晴れ	7.0	8.0	0.40	全層	50<	不検出	不検出	不検出

※放射性物質濃度の測定方法：ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法

※放射性物質濃度について、検出下限値（1Bq/L）以下のものは不検出と記載しています。

河川底質の放射性物質濃度の調査結果(R5.2.14)

№	採取地点		採取日	天候	気温 (°C)	水温 (°C)	全水深 (m)	採取深 (cm)	性状	放射性物質濃度 (Bq/Kg) 乾泥		
	河川名	地点名								放射性セシウム		
										放射性ヨウ素 I-131	Cs-134	Cs-137
1	関山川	深田橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.10	5	砂	不検出 (検出限界値:5.5)	不検出 (検出限界値:6.7)	21
2	境川	境橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.20	5	砂	不検出 (検出限界値:7.2)	不検出 (検出限界値:7.0)	22
3	八反川	竹の内橋	R5.2.14	晴れ	6.0	5.0	0.30	5	小石 混砂	不検出【不検出】 (検出限界値:7.0【6.2】)	不検出【不検出】 (検出限界値:5.8【5.1】)	37【32】
4	江戸上川	第一神岡橋	R5.2.14	晴れ	4.0	4.5	0.20	5	小石 混砂	不検出 (検出限界値:11)	不検出 (検出限界値:7.1)	92
5	根古屋川	根本橋	R5.2.14	晴れ	6.0	6.0	0.38	5	小石 混砂	不検出 (検出限界値:7.2)	不検出 (検出限界値:7.7)	31
6	木皿川	大塚川合流点下流	R5.2.14	晴れ	7.0	7.0	0.35	5	小石 混砂	不検出【不検出】 (検出限界値:7.0【5.4】)	不検出【不検出】 (検出限界値:7.2【5.6】)	24【19】
7	塩田川	新橋	R5.2.14	晴れ	7.0	8.0	0.40	5	砂	不検出 (検出限界値:8.0)	不検出 (検出限界値:7.4)	45

※放射性物質濃度の測定方法：ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法

注1) 放射性物質濃度の【 】内の数値は、水分補正を実施していない状態（原体）での放射性物質濃度を記載しています。

河川周辺環境土壌の放射性物質濃度の調査結果(R5.2.14)

№	採取地点		採取日	天候	採取深	性状	採取位置	放射性物質濃度 (Bq/Kg) 乾			空間線量 ( $\mu$ SV/h)
	河川名	地点名						放射性ヨウ素		放射性セシウム	
								I-131	Cs-134	Cs-137	
1	関山川	深田橋	R5.2.14	晴れ	5 cm	砂質	左岸	不検出 (検出限界値:7.9)	不検出 (検出限界値:7.4)	79	0.06
5	根古屋川	根本橋	R5.2.14	晴れ	5 cm	壤質+砂	左岸	不検出 (検出限界値:12)	不検出 (検出限界値:11)	230	0.06
6	木皿川	大塚川合流点下流	R5.2.14	晴れ	5 cm	壤質	左岸	不検出 (検出限界値:13)	不検出 (検出限界値:12)	170	0.06
7	塩田川	新橋	R5.2.14	晴れ	5 cm	壤質	左岸	不検出 (検出限界値:9.9)	不検出 (検出限界値:15)	260	0.06

※放射性物質濃度の測定方法：ゲルマニウム半導体検出器を用いたガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法

※空間線量は、日立アロカメディカル製TCS-172Bを使用し、地上1mでの測定値を記載している。

※№9地点は、H28.7.25の調査まではほぼ同じ地点での採取であったが、河川敷の土が流され岩石のみとなったため、H29.1.26の調査ではそれ以前の調査地点より50m程度下流側に移動している。また、H29.7.19以降の調査では、河川敷の形態の変動により堤防法面での採取となっている。